

学会動向

日本仏教学会

本学会は昭和三年に仏教系の大学、専門学校、および仏教学の講座を持つ国立大学を中心として発足した。仏教学系の学会では最も伝統のある学会である。戦中、戦後の混乱期を除いて毎年一回、学術大会が発表され、その発表原稿は『日本仏教学会年報』として刊行されている。現在加盟校は三十二大学であり、一六六〇名の会員を擁している。学術大会には各校一名乃至二名が研究発表を行なうことになっている。この学会の特色は大学単位で会員が構成されることと、毎年の学術大会には共通テーマを設けて、そのテーマに沿って各方面から研究し、発表することである。今年度は本学が当番校となり、十月八日（土）、九日（日）の両日、五号館を中心として開催された。今年度のテーマは「仏教における誓願」であり、二十九大学から三十七名が二部会に分かれて発表した。本学からは左の両教授が発表された。

本願思想の源流

香川孝雄

善導における誓願と発願

深貝慈孝

なお、本学会には会長を置かず、各大学が廻り持ちで学会の運営を行なっているが、本年度からは本学が常務理事校となって学会の運営事務を行なっている。

二日間にあたる佛敎大学での発表には、延べ人数二百三十名を越える会員が参加し、「誓願思想」の持つ歴史的、教義的意義に関して活

発な討議が展開された。現在までに年報は第五十九号まで発刊されている。平成七年秋には、今大会における「仏教にむける誓願」が第六十号として発刊予定であり、西部事務所である本学がその編集の作業を進めている。平成七年度の学術大会開催校は立正大学であり、「仏教における和平」を共通テーマとして学術大会が予定されている。前回（平成五年度）は東京大学で「仏教における聖と俗」を共通テーマとして開催され、それが今秋第五十九号として発刊されたものである。

なおまた『日本仏教学会六十年の歩み』として学会の歴史及び動向についての記事、記録が編集、印刷の段階にあり、平成七年には発刊予定である。

常務理事校である佛敎大学からは常務理事として香川孝雄教授が、そして理事として高橋弘次学長が出ておられる。また日本仏教学会西部事務所が大谷大学より平成六年九月以降森山研究室に置かれており、その事務責任者には森山が当たっている。

（森山記）